

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【理念】①皆様の立場にたち、考え、話し合いを持ち、大切な家族の一員であることをお約束します。②私たちは誠意を持って行動し、努力することをお約束します。③地域・家族・あらゆる関係機関の協力を頂き、皆様がいつまでも安心できる住まいであることをお約束します。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念については、勉強会を実施し、周知・考える機会を設けています。また、ホーム独自の理念は、職員全員との話し合いと願いの中から作成されたものです。大袈裟なものとは捕らえず、生活に密着したものとなるようなものにしていきます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域に対して、まずは心のこもった挨拶を心がけています。立ち話から親しい関係となり、当事業所に興味を持って頂くことで、相談や見学、利用者の紹介に繋がっています。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣スーパーや商店など、利用者にとって、気軽に気分よく利用させて頂けていることは、本当に有り難いことであると考えています。駐車場を空けておいて下さったり、無理を言い合える関係でもあると思います。また、犬の散歩(施設の飼育犬)を通して、散歩友達などもできつつあります。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学校の運動会や文化祭など、出来る限り参加するよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	地域にむけて事業所のノウハウを活かした相談事業や取り組みの紹介など、積極的に実施出来ない現状のため、現在、次年度の計画を検討中です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を活かし、ご利用者やご家族にとって、より安心のあるサービス提供となるよう努力しています。改善が必要な部分については、迅速に改善へと繋げてきたつもりです。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果や事業所の取り組みなど、説明させて頂き、また、意見やアイデアを伺うことの出来る、とても良い機会であると考え、運営に反映させています。	○	他のグループホーム等の取り組み状況も確認し、次年度にはより計画的かつ充実した内容となるよう、取り組んで行きたいと考えています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当職員とは、日頃より相談を持ちかけたり情報交換するなど、意識して交流するようにしています。不明な点を放置せず、何事も確認しつつ進めていくこと自体が、事業運営の適正化に繋がりが、ご利用者やご家族にとっての安心にも繋がると考えます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修を通して学ぶ機会を得ています。管理者は適用があるケースを判断し、活用する方法を理解しています。	○	今後も勉強を重ね、より理解を深めていく必要性があると考えています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事やその他から、虐待に関するデータをピックアップし、その都度考え、理解を深めることが出来るよう、法人全体で勉強する機会をもっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約段階では、出来る限り想定されることの説明を行い、対応方法の説明も行っています。実際には、利用してから不安や疑問も多いため、利用が始まってからでも遠慮なく、質問をぶつけて頂くことが、事業所のサービスの向上に繋がることをお伝えするようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ 苦情申し立て機関などについて、契約時の説明を行っています。また、法人のホームページや施設内に苦情受付担当者の掲示をおこない、誠意をもって苦情や要望に取り組む姿勢を明示しています。	現在のところ、苦情や不満申し立てといった大きな問題は発生していないため、家族や外部者への内容の明示はしたことがないが、家族からの個人的な要望などについては要望ノートを作成し、要望を誰が伺い、改善を話し合った経過を記録しています。改善点は迅速にサービスに反映しています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には、個人の様子を具体的なエピソードと絡めて解り易くお話するように努めています。同時に、日々の様子は、こまめに撮っている写真(アルバムに纏めています)や、二ヶ月に一度のGH新聞などを通して、より具体的に伝わるような工夫をしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○ 苦情申し立て機関などについて、契約時の説明を行っています。また、法人のホームページや施設内に苦情受付担当者の掲示をおこない、誠意をもって苦情や要望に取り組む姿勢を明示しています。	現在のところ、苦情や不満申し立てといった大きな問題は発生していないため、ご家族や外部者への内容の明示はしたことがないが、ご家族からの個人的な要望などについては要望ノートを作成し、要望を誰が伺い、改善を話し合った経過を記録しています。改善点は迅速にサービスに反映しているつもりです。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議に管理者は毎回参加し、職員の意見を確認しています。ただ聴くだけではなく、職員が誤った方向に進まないよう、厳しく指導することもあります。雑談を通し、普段から職員の考えや家庭の事情・悩みなどを確認し、働きやすい環境整備に努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	非常勤職員が多い職場環境ですが、いずれかの正職員が毎日出勤しているような勤務の調整をし、緊急時や問題発生時に対応できるようにしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	私たちの職場は決して良い部分ばかりではありませんが、職員の異動や離職の少ないことが自慢のひとつです。また、異動や離職もありましたが、出産のためが多く、職場を去った後でも子供を連れて職場を訪問してくれるなど、利用者にとって人間関係の輪が広がっていること実感しています。	○	しかし、現状に甘えず、いつ・何があってもサービスの質を落とすことなく、継続した現状の維持及び向上に繋げるよう、備えの必要性は常に感じています。具体的には、現職員の資質向上を図り、個人の能力を高めることでチーム全体の資質を上げ、退職があっても動じない態勢づくりが必要と考えています。職員の安定供給も運営の重要要素です。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員・非常勤に関わらず、働きながらトレーニング出来る計画を、法人及び施設全体の計画として立案・実行しています。また、他事業所との勉強会やケース検討会にも積極的に参加し、見聞を広め、個人のスキルアップに繋げています。	○	グループホーム独自の勉強会としては、時間が少なく、まだまだ不足している部分もあると考えています。今後、より一層の内容充実を図る必要があると考えています。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、大阪狭山市及び河内長野市合同交流会を実施して二年目となります。勉強会を実施したり困難事例の検討会など、地域にとって、GHの在り方を考えさせられる良い機会となっています。また、次年度はより地域に根ざした活動が出来るよう、現在計画中です。	○	地域にとって、グループホームが貴重な資源となっていくために、今後も切磋琢磨し、刺激し合える関係となっていきたいと考えています。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	きちんとした休憩の確保は、職員のストレス軽減に重要であるとの観点から、当たり前ですがきちんと時間を取っています。また、勤務についても、負担が悪循環となり離職に繋がらないよう、無理のない勤務作成への指導をされており、実施に努めています。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	正職員・非常勤に関わらず、出来る限りの権限委譲を行い、役割について、自身で考えたことが形になる喜びを感じてもらえるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限り初期の時点で問題点や不安点を明確にし、それに対してどのような対応が出来るのかを十分検討するよう努めています。まずはご利用者・ご家族からたくさんお話を伺うことから始めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限り初期の時点で問題点や不安点を明確にし、それに対してどのような対応が出来るのかを十分検討した上で、ご家族に説明します。また、職員はご利用者にとって決して家族の代わりは出来ないことをご家族に理解して頂き、役割を明確にさせ、困難が発生した場合に備える努力をしています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH利用の方向だけに留まらず、当法人の持つサービス提供機関を参考に、説明するようにしています。あらゆる選択肢の中から、最適なサービス利用に繋げることも私たちの重要な仕事のひとつと考え、必要時には直接担当者につなげています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得した上で、利用を開始出来るケースは稀ですが、たとえ不満や不安があったとしても、その気持ちを少しでも理解しようとする姿勢で、私たちは支援したいと思っています。面会を密にして頂いたり、外出・外泊を通し、ご家族と繋がっている安心感が施設利用の不安に勝り、混乱の少ない生活に繋がるよう、協力を要請しています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者にとって、互いに高め合える関係でありたいと願っています。互いが出来ないことを頼り、頼られる関係が喜怒哀楽を生み、それ自体が生活の支えになり得ると信じて日々の支援に取り組んでいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何か問題が起こった時に相談するだけでなく、ご家族にも私たちと同じ喜びを感じ取ってもらえるよう、日々の生活の中で起こった嬉しいエピソードこそ、たくさんお話しするようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と利用者との過去は様々であり、溝が深ければ深いほど複雑で、立ち入ることが難しい部分です。それでも時間をかけ、少しずつお話を伺い、互いの立場を一方的に決め付けることがないようにし、私たちがフォローできる箇所があれば協力するよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの環境で馴染みの人と会い、触れることができる支援に努めています。認知症が進行した利用者にとっても、地域の外出は風景を五感で感じ、何らかの刺激になっていることを期待し、これからも意識して取組んでいきたいです。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士の関係維持及び接点の少ない利用者との交流も含め、関係が閉鎖的にならないような支援に努めています。利用者間の関係から、人間の強さや弱さを学ばせて頂いていると思います。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養や病院に移られてからも、面会にこまめに行かせて頂いています。また、わざわざ訪問して下さるご家族もあり、訪問の際はご利用者のお話しに付き合っ下さるなど、とても有り難く感じています。居所が変わり、その後亡くなられても、通夜や葬儀に声をかけて下さることを誇りに思っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご利用者・ご家族の要望に沿えるよう、雑談を通して確認する努力をしています。職員で出来ること・ご家族にしか出来ないことを明確にし、個々に合わせて要望・希望の具現化に取り組んでいます。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴、暮らし方など、初期の段階で得る情報もありますが、利用がはじまってからの情報も多く、職員間で情報を共有し具体的にサービスに反映させています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	独りの時間がお好きな方、賑やかに過ごすことがお好きな方、心身の状況で負担を掛けてはダメな方など、毎日毎日が勝負と考え、気分よく、負担をかけないような生活を慎重に支援していきたいと考え、意識して取り組んでいます。そのために、職員間でよく話し、対応を統一する必要があるべき箇所を徹底させるようにしています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意見やご家族の思いを大切にしながら取り組みの実践に努めています。また、計画書にそれを反映させ、問題点を明確にしながらも、ご家族が計画書を見て嬉しくなるようなプランの作成を目標にしています。	○ 現在もプラン作成については、試行錯誤の状態であり、今後もより良いプラン作りの為の勉強を重ねていく必要性を感じています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書には無理が生じないよう、現実に即した内容の作成に努めています。日々の生活の中からアイデアを出し合い、プランの見直しや計画の変更を定期的実施しています。	○ 現在もプラン作成については、試行錯誤の状態であり、今後もより良いプラン作りの為の勉強を重ねていく必要性を感じています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には起こった出来事の全てを記入するようにしています。職員の主観でも、多くの主観の中から客観性を見出し、意見を統一した上でプランの立案に活かしています。		しかし、まだまだ画一的な記録の記入となっていることは現状の問題点でも考えています。今後も指導を重ね、より生活の状況が伝わる記録やプランの在り方について、自身も勉強を重ねていきたいと考えています。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの中で全て解決するのではなく、当法人が持つ多機能性を活かし、ケース検討で知識を深めたり、ご利用者間の交流を図っていくなど、視野を広げていくよう努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	化粧ボランティアは開設当初より毎月一回、訪問して頂いています。地域グループホームにも紹介し、喜びの輪を広げる努力をしています。また、法人のネットワークを活かし、音楽会や詩吟、ダンスなどのボランティアも来苑下さっており、ご利用者の楽しみのひとつとなっていると思います。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	サービス提供が誤った方向に進まないよう、他のケアマネジャーの意見を求めたり、各関係機関との話し合いを行っています。情報を交換することで知識を得、利用者へのサービス提供に反映していく狙いがあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について、ケアマネジャーを通して講師を招き勉強会を実施しています。	○	今後、より一層の連携を行っていきたいと考えています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>当事業所は、事業所の「できること・できないこと」を主治医を含めよく話し合った上で、現在の段階では看取りの介護の実践には至っていません。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームを退所し、別の居所へ移り住む場合は細かい申し送り書を作成しています。また、退所後の居所へも頻繁に伺い、その後の生活に困難が生じていないか、対応に困っていないかを確認し、意見交換等も適宜行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	私たちは「自分がされて嫌なことはしない・言わない」ことを日々の生活の中で意識して取り組んでいます。マナー研修などを通し、サービス提供者としての節度ある姿勢を学ぶ機会を得、具体的に日々の活かしていく努力をしています。	○	しかし、常に自身の対応けを振り返り、本当にその対応で良かったのかを考えることは今後、より良いサービス提供にとってとても重要であると考え、改善を図っていきたいと考えています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者にはその力に合わせ、物事を判断し実行に移す機会を日常的に支援するよう努めています。時には難しいと思われることでも、自然と身体が動くことも奇跡ではなく日々の生活の中であり、人間の底力のようなものを強く実感させられます。それらが職員のモチベーションアップにも繋がっています。	○	しかし、常に自身の対応を振り返り、本当にその対応で良かったのかを考えることは今後、より良いサービス提供にとってとても重要であると考えています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、ご利用者の気分やペースによって、画一的な対応とならないよう努めています。	○	しかし、職員の都合で利用者の方々に対応してしまわざるを得ない状況があることは否めません。改善努力が必要であることを痛感しています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身体状況により、現在は全利用者が訪問理美容サービスを利用しています。しかし、ヘアスタイルはご利用者及びご家族の意見を伺い、個性を引き出せることができるよう、努めています。ご家族も美意識が高く、洋服や化粧品などの用意をこまめにして下さいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>今後も現状に甘んじることなく、生き甲斐のある生活支援に向け一層の努力が必要であると考えています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと、小額ですが個人で金銭管理をされている利用者がおられます。スーパーでの買い物や施設内のヤクルト販売・売店での買い物に活用されています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画的な外出は、予め個人の希望を確認して出かけます。また、日常的には犬の散歩や気分転換の散策、要望があれば直ぐに買い物に行ける態勢を取っています。	○	職員の都合により、どうしても無理な場合があります。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方や身内に会いたいなど、施設側では対応が難しい場合は、ご家族にその思いを伝え、協力をお願いしています。また、孫の結婚式へ職員と共に参加したり、水族館などへの外出の実績があります。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用されるご利用者は多いです。身内だけに留まらず、友人・知人への電話も盛んです。また、脳梗塞後遺症により、お喋りが出来ない利用者でも、懐かしい声を電話口で聴くことにより、感情が込み上げてこられる場面があり、とても嬉しく感じています。今後も継続して支援していきたいです。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の頻度はどのご利用者も高いです。自立度の低い方でもご家族に会うと表情が生き生きとされ、ご家族もそれが嬉しいようです。ご家族以外でも近隣の知人・友人の訪問があります。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会を実施し、具体的な実例を挙げ、理解の徹底に努めています。また、新聞などのエピソードを配布し、日頃から意識を高めていく努力を重ねています。	○	今後も勉強を重ね、敏感になっていく必要のある分野であることを実感しています。法人全体で、より一層の知識習得に向けた努力を重ねていきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出来る限り玄関を開放しています。利用者は自由に売店やカラオケに行かれたり、デイサービスの利用者との交流を行われています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りはさりげなく行っています。危険があれば直ぐに手を出せる範囲です。また、併設施設のメリットを活かし、事務所や他の職員と連携し、二重・三重の安全確保に努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	たくさん物品を置っていますが、その中で危険のある物を取り除くようにしています。例えば、馴染みのあるパジャマのボタンを取って食べようとする方でも、ボタンをマジックテープに変更したり、日中は目が行き届くのでボタン(補強済み)のままでも対応したりし、臨機応変に支援しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応や消防訓練など、勉強会を通じ職員全員で取り組んでいます。また、二重・三重の注意を行い、誰かが危険に気付け、対応する態勢を整え、備えています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応は勉強会にて知識を習得しています。また、緊急の際は出来る限り現場を見、どのような対応をしているのかを直に学べるようにしています。	○	緊急対応は実地に即した勉強が一番大切であると考えています。緊急事態を経験し、自身に何が出来るか、また、何が出来たのかを振り返ることも重要であるため、今後も学び続けていく姿勢で取り組んでいきたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルに則り、ご利用者と共に防災訓練を定期的実施しています。その際に避難経路の確認や指示系統の確認も行っています。火災訓練は、消防との合同で行いました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	施設で生活することのメリット・デメリットを十分に説明するよう努めています。	○	施設側の「説明したつもり」はとても危険です。どの程度ご家族が理解されているか、事ある毎に説明していく努力を今後も重ねていき、トラブルを未然に防いでいく必要があると考えています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の主観をたくさん拾い集め、利用者の異変に気付くことができるよう、努めています。取るに足らない事柄でも、「何かおかしい…」と感じた時点で、主治医に相談するようにしています。	○	職員側の気の緩みが、大きな異常を見逃してしまうことの無いよう、「気付き」を大切にする人材の育成を進めていきたいと考えています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認しています。また、副作用と思われる症状が万が一出現した場合の対応方法なども主治医から確認するようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については、主治医・栄養士との連携やヤクルト及び水分摂取、食物繊維を多く含む食品の提供などを通し、薬に頼り過ぎない方法を検討し、実践しています。運動やホットパックなども取り入れ、臨機応変に対応しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	定期的な歯ブラシ交換やポリデントの使用、口腔ケアを利用者の状態に合わせて行っています。地域歯科医の往診や相談を気軽に行える環境にあり、痛みや口腔内の不具合があれば休日夜間問わず連絡を取れるような取り組みも行っています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリーを把握し、嗜好品やおやつの方量をさりげなく調整しています。また、水分は少量をこまめに摂って頂くことで負担の少ない吸収を促し、健康状態の維持に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルがあり、定期的に勉強会を実施しています。また、現在はノロウイルス感染マニュアルに則り、対応を実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の買いだめや作り置きはしないのはもちろんのこと、調理器具や食器の消毒なども毎日実施しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やベランダは、職員や利用者が楽しみながら季節の植物を植える場となっています。利用者にとって馴染みや思い入れのある植物を出来るだけ多く使用し、利用者が手入れなどを行い易い環境への工夫を行っています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり整頓されていない環境ではありますが、汚すぎず、綺麗過ぎずをモットーに、興味を引き立てるような物品を配置する努力をしています。また、季節ごとの花を生けたり、共有空間でも他者と少し距離を置けるようなスペースを設置し、居心地の良い環境となるよう努力しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、ソファや畳のスペースを活用し、利用者がひとりで縫い物をしたり洗濯物をたたんだりされています。個人個人に「いつもの場所」があるように思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族は、面会時にお部屋の模様替えをしてくだ さったり、掃除をしてくださったりと、職員だけ ではなくご家族との協働で行っています。重度の 方でも、昔に編んだセーターを飾ったり、お好き だった花のアロマを炊いたりし、居心地が良くな るお部屋づくりに取り組んでいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	季節柄、特に換気の徹底に努めています。また、 湿度計を活用し、適温・最適湿度の維持に努め、 感染症の予防に努めています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	大型施設のため、機能的な構造となっており、設 備面では大きな問題はありませんが、個人が認識 し易い部屋の目印や、使いやすい家具の配置など には安全面を考慮して取り組んでいます。ご利用 者の状況に合わせた臨機応変な対応を行っていま す。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個人の力に合わせ、居室の目印やトイレの場所を 明確化させ、混乱が生じないような配慮を行って います。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花々を植え、日光浴や洗濯物 干しの場として活用しています。寒い季節です が、毎日ベランダへ出られるご利用者もおられま す。		

(部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者の皆様が生活されていく上で直面される不自由な部分をしっかりお支えすることが私達の使命と考えています。皆様に誇れることはありませんが、唯一自慢できることがあるとすれば、ご利用者の皆様の個性が輝いている、笑いの絶えないホームであることです。ささやかな毎日ですが、これからも地道にゆっくり過ごしていけたらいいと思っています。